

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	在宅医療の業務効率化の取り組み ～ディクテーションによる診療録作成サポート～
演者名	村上典由、北山摂、遠矢純一郎
所属	桜新町アーバンクリニック

<目的>

在宅医療は移動時間等で非効率な面が多いため、当院では業務効率化のためにディクテーション（音声による診療録のテープ起こし）によって医師の診療録作成業務をサポートし、業務負担を軽減している。

<実践内容>

医師は、移動中にボイスレコーダーに診療内容を録音。1 日の診療終了後、音声ファイルを専用サーバー経由で専任のディクテーションスタッフに送信する。ディクテーションスタッフは音声ファイルを聞き、診療録の形式に整えたテキストファイルを作成し、当日夜までに医師にメールで返信する。医師はその内容を確認して診療録が完成する。スタッフは育児中の潜在看護師や医学生などで、自宅で作業を行っている。

<実践効果>

ディクテーションを行わなかった場合は、診療終了後に診療録の作成時間が 1～2 時間必要であったが、ディクテーションを活用することで移動中の 30 分程度にすることができ、医師の労働時間短縮化、あるいはその分の訪問件数増加ができるようになった。

また、診療内容をボイスレコーダーに録音（1 件約 3 分）するだけなので、電子カルテへの入力に比べて負担が軽く、診療録の情報量を容易に多くすることができる。多事業所間での情報共有が重要な在宅医療においては非常に効果的で、院内外の情報共有に役立っている。それ以外にも、ディクテーションによってカルテの形式を統一することや、勤務時間が短い育児中の医師が限られた時間を診療に充てられるなどの効果があった。

費用面でも、医師の診療録作成時間を 1 件あたり 10 分とした場合、医師の人件費から 1 件の診療録の作成に 1600 円程度かかるが、ディクテーションスタッフを活用すると作成費用は 500 円程度となり経費削減効果もある。

<考察>

24 時間対応が必要な在宅医療においては、ディクテーション等によって日常業務の効率化を行い、医師が診療や 24 時間対応に集中できる環境を整備していきたい。